

# 大阪城

2022  
2/24 (木)  
14239 号

全港湾  
西成分会

224  
6647-  
4947

もうすぐ3月、早朝はまだ寒気が確実に  
春は近づいている。自然の営々として、卒直  
あるが、人由社会は複雑でどうはいかない。

ウクライナ東部でロシアとの紛争がこじれ  
激化している。東部の一部を独立承認した  
ロシアに対し、イオカは「侵攻の始末リ」だとして  
経済制裁をEU(ヨーロッパ)、同盟国と冷めている。

過去の歴史では、ナポレオンやヒットラーの侵略  
を受けたロシアとヨーロッパの国々は、複雑なだ  
らう。戦前の明治憲法や民法、民法、軍事など  
ヨーロッパから取り入れた日本であって、少しはヨーロッパ  
はわかる日本人だが、しかし、深いところは理解できな  
い。多いのではなただろうか。安倍政権の時、プーチン  
と仲良くなって北方のことを解決して名を残そうと  
した安倍だが、紛争解決のための財産など今の日本  
残っていないだろうか。しかし、(天然ガスの)8%ほどをロシアに  
たよっているわけで、配するくらいしかたはなっていない。

アメリカの全体的体力が落ちてきているように。

「経済制裁」と宣言するものの、このことではあるようだ。

西のウクライナ、東のロシア、二正面作戦をやちよ  
体力は今のアメリカにはない。国内のウイルス対策、分断  
と対立に力を使い、はたしている。津波が、アメリカの今のようです。

# 不当判決なんかに屈しない！大阪高裁前に200人～ 関西生コン弾圧 大阪第2次控訴審判決 2月21日

関西生コン弾圧大阪第2次事件(2017年12月ストライキの現場に行っていなかった組合役員2名への弾圧)について、この日の大阪高裁は控訴を棄却、執行猶予判決をそのまま維持するという不当判決であった。

午後1時から大阪高裁前に陣取った200名の仲間たちは、不当判決の一報が入ると次々に発言に立ってこの判決を弾劾、ストライキの権利を守り、労働組合運動を前進させる決意を表明した。当該の西山さんは、「上告はするが、今日からは裁判から運動に頭を切り替え、産別ストライキが社会通念上認められているような状況を実現していく。『組合員』を『組員』と2度読み間違えたのは裁判官の意識の表れた」と決意表明、担当の太田弁護士は、「共謀を示す直接の証拠がないにもかかわらず、判決は統一的な行動が行われたことが計画があった証拠だ等とした。一審判決が『声を張り上げて強烈に阻害した』『雇用関係がないから使用者に当たらない』等と書いて批判された部分は今回はなく、運賃値上げ等のストライキの目的も認定しながら、『その態様は容認されない』として量刑も1審判決を維持した」と解説した。全日建本部の小谷野書記長は「ダイワN社や植田組が社員を大量動員して争議対抗行動をとったことは理解できるとし、他方、組合の説得活動に対しては、『説得しても応じないことは予想されていたのだから阻止行動は共謀されていた』と判断するなど悪質な判決であった」と弾劾した。全労協、全港灣、改憲阻止・大行進、なかまユニオン、全交、港合同、兵庫ユニオン、関西合同労組、反原発若狭の会、大弾圧を許さない京滋実行委、そして関西生コン支部の被弾圧当該と役員が次々に発言、憲法と労働法に基づくスト権を踏みにじったこの日の判決には絶対に屈しないことを明らかにした。レイバーネット

抗議集会に参加してきました。「裁判所(司法)も相当おかしな時代になっている」と思いましたが、昨日同じ大阪高裁が優生保護法による避妊手術裁判で除斥期間をみとめず原告勝訴判決でました。まだまだあきらめず争議の正当性を訴え続けることが必要だと思います。